

授業概要

パンを焼く乾燥アジアとご飯を炊く湿潤アジアでは、自ずと生活様式が異なり、社会組織、ひいては家族の在り方まで違ってきます。かくして、地域性を色濃く反映しつつ、世界各地にさまざまな文化が醸成されてきたのです。そのような伝統文化は、近代以降、グローバル化の荒波に洗われて、劇的な変容を強いられています。しかし、それでもなお温存される「古層」があるとすれば、それこそがまさに「文化の本質」といえるでしょう。でも、地域研究に頼ってばかりでは、そのような「古層」はなかなかみえてきません。比較文化論の観点から、乾燥と湿潤の「境界」にこそ目を凝らすべきなのです。

本講義では、主としてアジアの諸文化を検討の俎上に載せ、乾燥と湿潤がせめぎ合う「境界」に着目しつつ、アジア文化論について考究したいと思います。結果、受講生のみなさんの裡に確固たる「アジア観」が涵養されることを願ってやみません。

授業計画

第 1 回	導入①：アジアを俯瞰する眼
第 2 回	導入②：「アジア的」ということ
第 3 回	湿潤アジア①：乾燥と湿潤をまたぐ中国
第 4 回	湿潤アジア②：韓国は「洪水型」か？
第 5 回	湿潤アジア③：台湾アイデンティティ
第 6 回	湿潤アジア④：東南アジア大陸部
第 7 回	湿潤アジア⑤：東南アジア島嶼部
第 8 回	境界のアジア①：混沌のインドで考えたこと
第 9 回	境界のアジア②：黄金のベンガル
第 10 回	辺境のアジア：ネパールとスリランカ
第 11 回	宗教のアジア①：呪術師のいる風景
第 12 回	宗教のアジア②：世界宗教の受容について
第 13 回	中央アジア：草原を駆けるトゥルク
第 14 回	乾燥アジア①：イスラームの歴史
第 15 回	乾燥アジア②：「アラブの春」のこと
第 16 回	総括：風土、人間、文化

到達目標

- (1) アジア諸文化の歴史的・地理的概要を把握し、かつ、比較文化論の観点から、大胆な考察ができる。
- (2) 独自の「アジア観」を自らの裡に構築することで、めまぐるしく変動する国際社会における「自立と共生」の意味を模索できる。

履修上の注意

- (1) 予備知識は必要ありませんが、主体的・積極的な授業参加を希望します。
- (2) 欠席・遅刻・早退については、理由（就職活動、教育実習など）を鑑み、これを認めることがあります。

予習復習

- (1) 予習の必要はありません。
- (2) 復習についてもとくに定めませんが、講義中に示した参考文献をできる限り参照してほしいと思います。

評価方法

理解度の確認 80%、平常点評価 20%（出席状況、講義中の発言など）

テキスト

- (1) テキストは指定しません。関連資料については、適宜、配布します。
- (2) 以下に、参考図書として、講義担当者の著作を紹介します。
齋藤正憲『境界の発見：土器とアジアとほんの少しの妄想と』、近代文藝社。
齋藤正憲『ロクロを挽く女：アジアの片隅でジェンダーを想う』、雄山閣。